

2010年12月2日

各位

双日株式会社

ASEAN 域内で最大規模の穀物専用港が完成
～ 小麦粉生産能力も倍増し、ベトナムトップクラスの製粉会社へ ～

双日株式会社が 20%出資するベトナム製粉大手のインターフラワー・ベトナム社（本社：バリア・ブンタウ省、Interflour Vietnam Limited/IFV 社）の港湾施設カimeppアグリ港（Cai-Mep Agri Port、以下 CAP）が 2010 年 11 月末に完成し、12 月 1 日にベトナム政府関係者の出席も得て港湾完成記念式典を開催しました。



【カimeppアグリ（CAP）港】

今回完成した CAP は、パナマックス級本船（約 6 万ト）が着岸可能な穀物専用の港湾施設で、荷役能力は年間約 300 万ト、穀物保管用の倉庫・サイロ約 16 万トを備え、内航船への積替え用埠頭を備える ASEAN 域内で最大規模の穀物専用港です。

ベトナム南部、ホーチミン近郊でのバラ積み貨物の取扱いは、従来は水深が浅い公共バースでの中・小型船が中心で、年々増大する貨物数量に対する荷役能力の不足から、しばしば滞船が発生していましたが、CAP の完成で大幅な改善が期待されます。IFV 社では初年度 100 万ト、5 年以内に年間 200 万ト以上の貨物取扱いを計画しております。

また、IFV 社は、今般、ベトナム国内の旺盛な需要に対応するため、約 20 億円を投じた新たな製粉ラインの設置を決定しました。この増設で 2011 年末までに製粉能力を現状の 500 ト/日から 1000 ト/日へと倍増し、ベトナム第 1 位の生産能力を持つ製粉会社となる見込みです。ベトナムでは、経済成長にともなう食の欧米化の影響もあり小麦粉の需要が年々高まっており、2009 年の小麦輸入量は約 120 万トですが、今後、年約 5%で成長を続け、2014 年には約 180 万トへと増大が見込まれます。

双日は、この CAP を活用し、カナダ・米国・豪州産の小麦に加え、ロシア産小麦の取り扱いも進め、さらに、双日が直接的に農業事業を行う南米地域（アルゼンチンやブラジル）からも脱脂大豆・トウモロコシ・小麦などの飼料原料を、ベトナムを含めたアジア地域に向け展開することで、食料資源の確保と供給の安定化に貢献してまいります。



IFV 社製粉工場所在地



IFV 社の製粉工場、サイロ、穀物エレベーターと荷役コンベヤー



CAP 港での荷役風景

(参考資料)

■ I F V社概要

名称： インターフラワー・ベトナム

Interflour Vietnam Limited

本社： バリア・ブンタウ省

概要： インドネシア最大の財閥サリムグループと豪州最大の農業協同組合コーペラティブ・バルク・ハンドリング社（Co-operative Bulk Handling Limited、CBH 社）の合弁会社であるインタフラワー・ホールディングス社（Interflour Holdings Limited）が 80%、双日が 20%出資する事業会社。

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03-5520-2299